



TITLE:

研究会記録

AUTHOR(S):

CITATION:

研究会記録. 人文學報 2011, 100: 175-190

ISSUE DATE:

2011-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/148026>

RIGHT:

研究会記録

2001/ 06/ 09 2001 年度 第 1 回 研究会

斎藤成也 / スチュアート ヘンリ「『人種・民族概念の検討小委員会』の経緯と最終報告」

竹沢泰子「アメリカ人類学会の声明・ユネスコ声明改訂の動き」

米山俊直（大手前大学）「『偏見の構造』その後」

斎藤成也「動物としてのヒトにおける『人種』の意味」

2001/ 10/ 12 2001 年度 第 2 回 研究会

竹沢泰子「国連人種差別反対世界会議（WCAR）NGO フォーラムに参加して」

竹沢泰子「19 世紀末アメリカにおける人類学と『人種』」

ヴィルター・シュニレルマン（国立民族学博物館・ロシア科学アカデミー）「現代ロシアにおける人種差別」

2001/ 10/ 13 2001 年度 第 3 回 研究会

渡辺公三「フランス 19 世紀人類学における『人種』の概念」

小牧幸代「ムスリム社会研究者から見た『NY 同時多発テロ事件問題』」

2002/ 01/ 13 2001 年度 第 4 回 研究会

片山一道「『人種』は社会学的なタームなり」

坂野徹「『日本人種論』の政治学」

2002/ 01/ 14 2001 年度 第 5 回 研究会

坂元ひろ子「中国近代の『人種』概念と人類・民族学の成立をめぐる」

臼杵陽（国立民族学博物館）「シオニズムという問題：民族解放か、人種主義か？」

2002/ 03/ 21 2001 年度 第 6 回 研究会

斎藤成也「人種差別と動物愛護」

スチュアート ヘンリ「新聞などの活字メディアにおける『人種』」

栗本英世「人種主義的アフリカ観の残影：『セム』『ハム』と『ニグロ』」

2002/ 03/ 22 2001 年度 第 7 回 研究会

貴堂嘉之「歴史学と『人種』：アメリカ史における問い」

渡辺公三「『人種』概念の背景：分類と同定の論理と制度」

北垣徹（京都大学人文科学研究所）「トナピールと『人種』」

2002/ 03/ 23 2001 年度 第 8 回 研究会

竹沢泰子「19 世紀後半の米仏の人種思想の往来」

坂野徹「山室信一『思想課題としてのアジア』（岩波書店）における『人種』『民族』理解を読む」

菊地暁（京都大学人文科学研究所）「柳田 / 民俗学と人種」

2002/ 03/ 24 2001 年度 第 9 回 研究会

坂元ひろ子「欧米と中国における人種・優生学・人類学」

小牧幸代「インドにおける『人種』概念とその展開」

竹沢泰子「総括と国際人類学民族学会議京都サテライト版（9月）での『人種』国際シンポ
に関する打ち合わせ」

2002/ 05/ 18 2002 年度 第 1 回 研究会

松田素二「『人種』と文化ナショナリズム：アフリセントリズムの提起するもの」

林行夫（京都大学東南アジア研究センター）「東南アジア大陸部人の『優生学』：錯綜する民族
と人種」

2002/ 05/ 19 2002 年度 第 2 回 研究会

加藤和人（京都大学人文科学研究所）「ヒトゲノム多様性研究の今」

黒川みどり「近代社会における被差別部落認識：人種主義との関わりから」

2002/ 07/ 22 2002 年度 第 3 回 研究会

小牧幸代「ムーア論文について」

富山一郎（大阪大学）「日本における人種概念の受容と実践」

坂元ひろ子「中国史上の人種概念をめぐって」

2002/ 07/ 23 2002 年度 第 4 回 研究会

斎藤成也「人種よさらば」

田中雅一「チャンナ論文について」

竹沢泰子「全体概要およびシンポの打ち合わせ」

2002/ 08/ 22 2002 年度 第 5 回 研究会

大阪リバティ見学

2002/ 09/ 19「人種概念の普遍性を問う」国際シンポジウム

〈京都会議〉

竹沢泰子「人種概念のの普遍性を問う：問題提起」

C. ローリング・ブレイス / 瀬口典子「『人種』は社会的構築物か生物学的リアリティか」

斎藤成也「人種よさらば」

片山一道 司会コメント

ロバート・ムーア（リヴァプール大学）「19 世紀ヨーロッパにおける人種と不平等：身体と歴
史」

オードリー・スメドレー（ヴァージニア・コモンウェルス大学）「北アメリカにおける人種イデ
オロギー」

富山一郎「帝国日本の人種および人種主義」

渡辺公三 司会コメント

黒川みどり「人種主義と部落差別」

サブハードラ・チャンナ（デリー大学）「植民地主義，カースト，人種と言う神話：インドの
社会通念と西洋科学の相互作用についての歴史的視座」

栗本英世「人種主義的アフリカ観の残影：『セム』『ハム』と『ニグロ』」

田中雅一 司会コメント

山室信一，松田素二 全体コメント

〈東京会議〉

ローリング・ブレイス（ミシガン大学）／瀬口典子 “‘Race’ is not a Valid Biological Concept”

片山一道 “What is the ‘Race’ Concept for Japanese Biological Anthropologists?”

ロバート・ムーア（リヴァプール大学）“Race and Inequality in 19th Century Europe:
The Social Construction of Human Bodies and National Histories”

オードリー・スメドリー（ヴァージニア・コモンウェルス大学）“Racilizing the Human Body:
Example of the United States”

富山一郎 “Race and Racism in the Japanese Empire”

坂元ひろ子 “Historical View of Chinese Concept of Race”

サブハードラ・チャンナ（デリー大学）“The Crafting of Human Bodies and the Racialization of Caste in India”

栗本英世，多賀谷昭 Comments

2002/ 09/ 20 2002 年度 第 6 回 研究会

「人種」シンポ専門家会議

2003/ 01/ 09 2002 年度 第 7 回 研究会

貴堂嘉之「風刺画の中の国民・人種・アジア：19 世紀アメリカの国民統合と排華運動を中心に」

2003/ 01/ 10 2002 年度 第 8 回 研究会

香原志勢（帝塚山学院大学）「現象としての人種：自然人類学の立場から」

坂野徹「我らが内なる『他者』：戦前日本のアイヌ研究と『人種』問題」

2003/ 04/ 18 2003 年度 第 1 回 研究会

竹沢泰子「人種の表象と表現をめぐって：研究会の趣旨」

北原恵「ベネトン広告に見る『人種』の構築と『多文化主義』」

2003/ 05/ 10 2003 年度 第 2 回 研究会

富山一郎「帝国の中で自己を名乗るということ，あるいは『琉球人種』の行方」

高階絵里加「“What is the ‘Race’ Concept for Japanese Biological Anthropologists?”

(片山一暎)を読んで」

坂野徹「片山報告『日本の自然人類学者にとって“Race”の概念とは何か』へのコメント」

富山一郎，小関隆「富山論文『帝国日本の人種および人種主義』の報告とコメント」

加藤和人，川島浩平「斎藤論文『人種よさらば』へのコメント」

2003/ 05/ 11 2003 年度 第 3 回 研究会

石川禎浩「坂本論文『中国史上の人種概念をめぐって』へのコメント」

小林敦子，田辺明生「黒川論文『人種主義と部落差別』へのコメント」

石橋純，大浦康介「栗本論文『人種主義的アフリカ観の残影“セム”“ハム”と“ニグロ”』

へのコメント

2003/ 06/ 14 2003 年度 第 4 回 研究会

高階絵里加「西洋美術における異邦人表現の伝統：〈東方三博士〉の図像をめぐって」

竹沢泰子「書評『bell hooks. Black Looks: Race and Representation. Boston: South

End Press. 1992.』」

2003/ 07/ 12 2003 年度 第 5 回 研究会

竹沢泰子「人種概念の普遍性を問う？：問題提起」

松田素二「黒人性について」

2003/ 07/ 13 2003 年度 第 6 回 研究会

高木博志「維新変革における天皇をめぐる清浄性・貴種性と賤・穢」

坂野徹「日本人類学と『人種』」

2003/ 10/ 11 2003 年度 第 7 回 研究会

井野瀬久美恵「『人種』議論にかんする覚書」

小関隆「『グレイター・ブリテン』という快感：19世紀イングランドにおける人種論の展開」

2003/ 11/ 08 2003 年度 第 8 回 研究会

川島浩平「アメリカスポーツと人種：問題の所在と方向性」

石橋純「ベネズエラの人種差別に関する開かれた議論に向けて：マスメディアにみる『黒人』の排除とステレオタイプ化された登用」

2003/ 11/ 09 2003 年度 第 9 回 研究会

田中雅一「米軍における人種とジェンダー」

大浦康介「人種とポルノグラフィー」

2003/ 12/ 10 2003 年度 第 10 回 研究会

国際シンポジウム「ニューウェーブ：21 世紀の日系アメリカ人研究」

Lon Kurashige (University of Southern California) “Japanese American Studies in the Rearview Mirror Universalism and Exceptionalism in Japanese American Studies: Towards a Historiography.”

竹沢泰子 コメント

Kristina Vassil (University of Michigan) “Migrating to and from Japan Writing Between Two Nations: Okina Kyuin's Sokoku ni Kaeru Ki or a Record on Returning Home.”

Arthur Nomura (Loyola Marymount University) “Once and Again: Japanese Americans Return to Japan: Preliminary Findings.”

野崎京子 (京都産業大学) “Crossing National Boundaries and the Color Line: Contrastive Study of Houston's ‘Tea’ with Ariyoshi “Hishoku.””

米山裕 (立命館大学) “Conceptualizing ‘Race’ and ‘Community’ in the United States Placing the Japanese Immigrant Community in the Time-Space of Early Twentieth-Century American West: The Nexus between the Japanese Association and the Local Economy.”

南川文里 (一橋大学) “Ethno-racial Formation of Japanese Immigrant Community in Los Angeles: A Sociological Perspective.”

吉田亮 (同志社大学) コメント

竹沢泰子 ブライアン・マサル・ハヤシ (京都大学) 和泉真澄 (同志社大学) “Globalization and the Future of Japanese American Studies”

2004/ 01/ 10 2003 年度 第 11 回 研究会

加藤和人「生命科学研究の社会的・倫理的議論の今：クローン研究，ヒトゲノム多様性研究などを例に」

埴原恒彦 (佐賀医科大学) 「生物学的に人種は定義されるのか：形態学からみた現生人類集団の変異・多様性」

2004/ 01/ 11 2003 年度 第 12 回 研究会

竹沢泰子「序論に追加すること」

貴堂嘉之 コメント

渡辺公三「人種闘争史の系譜学：フーコーの『社会を防衛せよ！』から」

2004/ 03/ 31 2003 年度 第 13 回 研究会

小牧幸代「英領インド期のセンサスにおける『宗教』と『人種』」

藤原辰史「ナチズム・エコロジズム・レイシズム：ナチス農本主義と人種問題」

2004/ 04/ 01 2004 年度 第 1 回 研究会

石川禎浩「清末の“排満”主義と中国人類学の興起」

2004/ 05/ 07 2004 年度 第 2 回 研究会

蘭信三「中国残留日本人をめぐる『日本人』言説の考察：『日本人は優れている』という言説を中心に」

溝口優司（国立科学博物館）「変異の存在『理由』と変異の一側面としての人種」

2004/ 05/ 08 2004 年度 第 3 回 研究会

五十嵐泰三「『俺たちの音楽』をめぐる困難：エイジアン・ブリティッシュの事例を中心に」

水谷智「交錯する人種と階級観：後期英領インドにおける白人性の構築をめぐる」

2004/ 06/ 11 2004 年度 第 4 回 研究会

田辺明生「インドにおける人種と植民地的近代：人種主義の二つの系譜とその交錯」

島大吾（大学院文学研究科）「アメリカ映画に見る『人種』：『王様と私』を題材に」

2004/ 09/ 10 2004 年度 第 5 回 研究会

倉島哲「身体表象とその彼方：武術を事例として」

竹沢泰子「人種の表象と表現研究の課題：いくつかの文献から —— Stuart Hall 著『Representation』, Jan Nederveen Pieterse 著『White on Black: Images of Africa and Blacks in Western Popular Culture』および Richard Dyer 著『White』」

2004/ 09/ 11 2004 年度 第 6 回 研究会

井野瀬久美恵「転位されるオリエンタリズム」

坂野徹「大東亜共栄圏構想と人類学者：戦時体制下の人類学研究」

2004/ 10/ 08 2004 年度 第 7 回 研究会

小関隆「『猿のようなパディ』：アイルランド人表象をめぐる抗争」

黒川みどり「つくりかえられる徴：戦後における被差別部落の表象」

2004/ 11/ 05 2004 年度 第 8 回 研究会

高階絵里加「西洋美術における異邦人表現の伝統：〈東宝三博士の礼拝〉図像をめぐる」

大浦康介 北原恵 コメント

藤原辰史「表情無きドイツ人：『血と土』の農民表象をめぐる」

2004/ 11/ 06 2004 年度 第 9 回 研究会

落合一泰（一橋大学）「絵画から写真へ：非西洋諸民族表象における変化と無変化」

崎山正毅「国民の『源流』？：『メスティーソ神話』と大西洋岸クレオール『歴史』の狭間からみる先住民」

2005/ 01/ 07 2004 年度 第 10 回 研究会

石橋純「ベネズエラにおける多文化主義，人種主義，恩顧主義」

2005/ 01/ 08 2004 年度 第 11 回 研究会

竹沢尚一郎（国立民族学博物館）「ブロカからデュルケームへ：国民国家 / 帝国主義 / 人種」

渡辺公三 コメント

2005/ 03/ 04 2004 年度 第 12 回 研究会

井野瀬久美恵「サラ・フォーブズ・ボネッタは何を〈語った〉のか？：大英帝国のなかの人種再考」

田中雅一「雑誌記事から見る外国人男性とのつきあい方：国際結婚との関係を探る」

2005/ 03/ 05 2004 年度 第 13 回 研究会

加藤和人「ヒトゲノム・遺伝子研究にとっての人種・民族問題：最近の話題から」

2005/ 03/ 25 2004 年度 第 14 回 研究会

Young Soon Min（カリフォルニア大学 Irvine 校）“Predicament of Place: Why Distinctions between Asian and Asian Americans Matter”

Paul Y. Watanabe（マサチューセッツ大学ボストン校）“Certain Latitudes: Diaporic Perspectives Is Yellow White or Black: Locating Asian Americans”

2005/ 05/ 27 2005 年度 第 1 回 研究会

北原恵「加治屋健司『大浦信行の《遠近を抱えて》はいかにして 90 年代的言説を準備したか』の紹介と研究動向」

蘭信三「多民族国家『満州国』をめぐる民族言説と国民国家言説：日本人による表象を中心として」

2005/ 05/ 28 2005 年度 第 2 回 研究会

スチュアート ヘンリ「事（辞）典類にみる〈人種〉」の定義変遷と若干の考察」

大浦康介「山田詠美と〈人種〉」

2006/ 07/ 14 2006 年度 第 1 回 研究会

竹沢泰子，出席者全員「研究会再開と成果発表について」

貴堂嘉之「Miscegenation の物語：アメリカ合衆国の人種秩序の政治と表象」

2006/ 07/ 15 2006 年度 第 2 回 研究会

李昇燁「〈顔が変わる〉：朝鮮植民地統治と朝鮮人の『見分け』」

森仁志（ゲスト 武蔵大学非常勤講師）「人種とエスニシティの交差：ハワイのパートジャパニーズの諸実践を事例として」

2006/ 09/ 30 2006 年度 第 3 回 研究会

John G. Russell “Authenticating Alterity: Stereotypes of the Black Other in Japan”

and the United States”

川島浩平「日米における『黒人身体能力・運動能力 (black athleticism)』表象」

2006/ 10/ 20 2006 年度 第 4 回 研究会

加藤和人「ゲノム医学研究における人類集団の呼称について：近年の動向から」

金麗実（ゲスト 人文研学振）「『望楼の決死隊』論：『望楼』のヒエラルキー」

2006/ 10/ 21 2006 年度 第 5 回 研究会

黒川みどり「映画『橋のない川』にみる部落問題表象」

坂野徹「蜂起の記憶：台湾原住民と帝国日本の心理学・精神医学をめぐって」

2006/ 12/ 01 2006 年度 第 6 回 研究会

長谷川一年（ゲスト 同志社大学・帝塚山学院大学非常勤講師）「19 世紀フランスにおける人種・国民・文化：思想史的考察」

2006/ 12/ 02 2006 年度 第 7 回 研究会

竹沢泰子「アジア系アメリカ人芸術家たちの抵抗と葛藤：中間報告」

與那覇潤（ゲスト 東京大学大学院）「人種主義理論再考：近世・近代東アジアの視座から」

2007/ 01/ 13 2006 年度 第 8 回 研究会

高階絵里加「再考：西洋美術における異邦人表現の伝統：〈東方三博士の礼拝〉図像をめぐって」

水谷智，永渕康之（ゲスト 名古屋工業大学）「植民地から〈人種〉を再考する：アン・ストラーによる試み」

2007/ 01/ 14 2006 年度 第 9 回 研究会

石橋純（東京大学）「アフロ系子孫のアイデンティティ創生は可能か？：チャベス再選後のベネズエラにおける民族運動」

瀬口典子（ゲスト，モンタナ大学）「保守『科学』と『人種差』『性差』論争」

2007/ 03/ 10 2006 年度 第 10 回 研究会

宜野座菜央見（ゲスト 鶴見大学非常勤講師ほか）「日本映画のイデオロギー分析：1930 年代の女性表象を中心として」

2007/ 04/ 13 2007 年度 第 1 回 研究会

スチュアート ヘンリ「再び〈人種〉を問う：用語と人類学（者）」

坂野徹「〈混血〉研究の系譜学：日本における人類学・人類遺伝学と人種主義（経過報告）」

2007/ 04/ 14 2007 年度 第 2 回 研究会

黒川みどり「映画〈人間みな兄弟〉をめぐる部落問題の表象」

竹沢泰子，出席者全員「今後の予定と共同研究の問題提起」

2007/ 05/ 18 2007 年度 第 3 回 研究会

小関隆「〈哀れなカッフェイ〉とは何者か？：黒い肌のチャーティスト」

「人種の表象とリアリティ」（岩波書店より刊行）執筆者「各章の構成とキーワード『人種表象とリアリティ』」

2007/ 06/ 29 2007 年度 第 4 回 研究会

井野瀬久美恵「黒人は何を語る？『ネルソンの死』と『イングランドの偉大さの秘密』」

川島浩平「アフリカ系アメリカ人アスリート表象と対抗戦略の可能性：J・ホバーマンの歴史的アプローチを事例に」

2007/ 07/ 20 2007 年度 第 5 回 研究会

石橋純「チャベス政権下ベネズエラにおける多文化主義と人種主義」

加藤和人「ヒトゲノム研究と人類の多様性：科学が社会と出会うとき」

竹沢泰子「『人種とゲノム』の今：アメリカ合衆国における最近の議論」

2007/ 07/ 21 2007 年度 第 6 回 研究会

吉田憲司（国立民族学博物館）「『民族』の展示の現在，2007」

李昇燁「植民地朝鮮の医学者・医者と人種論」

2007/ 09/ 28 - 30 2007 年度 第 7 ・ 8 ・ 9 回 研究会

竹沢泰子「多文化主義が去ったあとに：アジア系アメリカ人アーティストたちの抵抗と自己表象」

黒川みどり「映画『橋のない川』にみる部落問題表象」

小関隆「『哀れなカッフェイ』とは何者か？：黒い肌のチャーティスト」

川島浩平「『黒人アスレティズム』という幻想：日本人にとっての人種観・イメージと運動能力」

高階絵里加「西洋美術における異邦人表現の伝統：〈東方三博士の礼拝〉図像をめぐる」

藤原辰史「虚ろな表情のドイツ人：ナチスの農民表象をめぐる」

坂野徹「混血と適応能力：日本における人種研究の系譜学」

李昇燁「『顔が変わる』：朝鮮植民地統治と朝鮮人の『見分け』」

井野瀬久美恵「もうひとつの『ネルソンの死』：黒人と女性なぜ描き加えられたのか？」

石橋純「アフロ系子孫の民族創生とメディア戦略：チャベス政権下ベネズエラにおける人種主義と多文化共生」

2007/ 11/ 10 2007 年度 第 10 回 研究会

石川禎浩「書評：ロバート・リー著 貴堂嘉之訳『オリエンタルズ』」

藤原辰史「虚ろな表情の『北方人』：『血と土の芸術』の農民表象をめぐる」

2007/ 12/ 15 2007 年度 第 11 回 研究会

ディスカッション 加藤和人論文・李昇燁論文

齊藤綾子（明治学院大学）「70 年代以降の表象理論について，特に映画理論の場合」

2008/ 01/ 11 2007 年度 第 12 回 研究会

立木康介「精神分析とユダヤ的なもの」

ジョン・ラッセル “Excluded Presence: Shoguns, Minstrels and the Japanese encounters with the Black Other”

ナンタ・アルノ（社会科学高等研究院（EHESS））“Paul Broca: Le Refus du Politique et du Transformisme”

2008/ 04/ 25 2008 年度 第 1 回 研究会

竹沢泰子 岩波出版計画

Asian American Youth: Culture, Identity and Ethnicity ed. by Jennifer Lee and Min Zhou, Routledge, 2006

Karen Shimakawa（ニューヨーク大学）“Mind Yourself: Soundwalking in the Other's Shoes”

2008/ 05/ 30 2008 年度 第 2 回 研究会

新刊出版に向けた合評会

加藤和人「ヒトゲノム研究と人種・エスニシティ概念」

2008/ 05/ 31 – 2008/ 06/ 01 第 42 回文化人類学会 文科会

與那覇潤「帝国期日本における人種の『表象』と『表象化』：琉球弧住民の事例を中心に」

板野徹「混血研究の政治学：エリザベス・サンダース・ホームと人類学者たち」

2008/ 09/ 09 2008 年度 第 3 回 研究会

新刊出版に向けた合評会

2008/ 09/ 26 2008 年度 第 4 回 研究会

東島仁（京都大学生命科学研究所）「人間社会と心の個人差：生命科学研究者の意見から」

山本真也（京都大学霊長類研）「チンパンジーの協力行動：ヒトとの共通点・相違点」

小林敦子（京都大学文学研究科）「矢崎弾『三代の女性』：小説に描かれた明治，大正，昭和の女性像と『歴史的発展』について」

藤原辰史（京都大学人文科学研究所）「稲も亦大和民族なり：水稻品種の『共栄圏』」

2008/ 09/ 27 2008 年度 第 5 回 研究会

吉村智博（リパティおおさか）「博物館における展示表象行為をめぐって：記憶装置と他者表象」

生井英考（共立女子大学）「黒人写真史研究の現在：人種と象徴」

2008/ 11/ 14 2008 年度 第 6 回 研究会

竹沢泰子「報告書の序章について」

東島仁（生命科学研究所）「人間社会と心の個人差：生命科学研究者の意見から」

エルナーニ・オダ（文学研究科），小田雄一（京都大学人間・環境学研究科），土佐尚子（京都大学学術情報メディアセンター）

2008/ 11/ 15 2008 年度 第 7 回 研究会

Caroline Hau（京都大学東南アジア研究センター）“Blood, Land, and Conversion : Mestizageness and the Politics of Belonging in Post-Independence Philippines”

Marvin Sterling（インディアナ大学，人文研客員）

2008/ 12/ 08 2008 年度 第 8 回 研究会

第 12 回京都大学国際シンポジウム『変化する人種イメージ：表象から考える』1 日目

2008/ 12/ 09 2008 年度 第 9 回 研究会

第 12 回京都大学国際シンポジウム『変化する人種イメージ：表象から考える』2 日目

2009/ 01/ 09 2008 年度 第 10 回 研究会

シンポジウムの反省会

竹沢泰子「序章」の合評会及び貴堂嘉之論文の合評会

2009/ 03/ 07 2008 年度 第 11 回 研究会

黒川みどり「マイノリティの表象：高校教科書（日本史 A）による」

高橋哲（渋谷教育学園幕張高等学校）「高校教科書『日本史 A』にみるマイノリティの表象」

成田龍一（ゲスト 日本女子大学）コメント

2009/ 04/ 25 2009 年度 第 1 回 研究会

竹沢泰子「新しい研究会の立ち上げにあたって」

シンポ反省会

松田素二，J・ラッセル，斉藤綾子 コメント

2009/ 04/ 26 2009 年度 第 2 回 研究会

寺尾智史（神戸大学）「アンゴラにおけるナショナルアイデンティティ構築と人種」

2009/ 06/ 20 2009 年度 第 3 回 研究会

Anna Pegler-Gordon（ミシガン州立大学准教授アメリカ史）「Representing and Regulating Chinese Americans During WWII」

Andreas Wimmer（カリフォルニア大学）「How to Study Ethnicity in Immigrant Societies」

2009/ 09/ 07 2009 年度 第 4 回 研究会

前高西一馬（早稲田大学）「Neither Hard-Boiled nor Soft-Scrambled : How Not to Say I

Am an Okinawan 沖縄人をリアルなものとする表象の仕掛け」

黒川みどり「創られた〈人種〉：近代社会のなかの部落差別」

2009/ 10/ 31 2009 年度 第 5 回 研究会

『人種の表象とリアリティ』合評会

関口寛（四国大学），瀬戸口明久（大阪市立大学），南川文里（神戸市立外国語大学）コメント

2009/ 11/ 01 2009 年度 第 6 回 研究会

佐々木利和（国立民族学博物館）「アイヌの問題の現状と歴史的表現をめぐって」

2010/ 01/ 10 - 11 2009 年度 第 7 ・ 8 回研究会

加藤和人（京都大学）「iPS 細胞研究を進めるための社会的課題と展望」

金森修（東京大学）「アガンベンの生政治学」

太田博樹氏（東京大学）「文化的要因によってヒトゲノム多様性は変化するのか？」

2010/ 03/ 13 - 14 2009 年度 第 9 ・ 10 回研究会

前高西一馬（早稲田大学ほか）「沖縄人をリアルなものとする表象の仕組み：Neither Hard-

Boiled nor Soft-Scrambled: How Not to Say I Am an Okinawan Part 2」

コメンテーター：喜納育江（琉球大学）

梁仁實（大阪市立大学ほか）「清き乙女，強き母，彷徨う戦士たち：「在日」表象の非対称性」

コメンテーター：高みか（シェフィールド大学）

成田龍一（日本女子大学）「戦争・占領経験のなかの「人種」・「民族」

2010/ 05/ 08 - 09 2010 年度 第 1 ・ 2 回研究会

竹沢泰子（研究代表 京都大学）「アジアにおける差異の表象～今後の研究会の課題」

喜納育江（琉球大学）「アメリカ文学における混血人種の表象と創造」

水谷智（同志社大学）「植民地帝国と〈比較のポリティクス〉：アン・ストーリーの呼びかけと東アジアからの応答可能性」

北原恵（大阪大学）「古沢岩美の描いた〈慰安婦〉：戦争・敗戦体験と主体の再構築」

2010/ 06/ 04 2010 年度 第 3 回研究会

Mark Dyreson マーク・ダイレソン（ペンシルヴァニア州立大学）“Stories They Tell Themselves about Themselves: Japanese and American Swimmers, African and Korean Distance Runners, and American and Mexican Mythologies of a “A Hidden Tribe of Superathletes” American Nationalism in International Contexts”
Ariela Gross アリエラ・グロス（南カリフォルニア大学）“Race and Law in the U.S. in Comparative Perspective”

2010/ 06/ 08 2010 年度 第 4 回研究会

Prof. Ariela Julie Gross（南カリフォルニア大学教授）

「血が告げぬもの：アメリカ合衆国の裁判における人種の歴史」(What Blood Won't Tell:
A History of Race on Trial in America)

2010/ 08/ 02 - 04 2010 年度 第 5 ・ 6 ・ 7 例会

竹沢泰子+全員「人種表象の日本型グローバル研究プロジェクトについて」

斉藤綾子 (明治学院大学)「差別はいかに表象されるか：フィクションからドキュメンタリー
まで」

黒川みどり「封建時代の亡霊」/ のしかかる「身の素姓」：『破戒』二つの映画作品から」

ニカノール・チョンソン Nicanor Tionson (フィリピン大学) “The Images of Indigenous
Peoples in the New Filipino Indie Film 2005 - 2008”

高みか「日本映画にみる〈慰安婦〉と〈在日〉女性」

2010/ 09/ 05 - 06 2010 年度 第 8 ・ 9 回研究会：アジアにおける被差別民と不平等

金 仲燮 (慶尚大学)「韓国の白丁について：起源・差別・闘争そして現状」“About
Peakjong in Korea: Origins, Social Discriminations, Struggle and Current
Situation”

タンカ・ブリッジ Brij Tankha (デリー大学)「インドのダリットについて：差異の保持と不
平等の解消」

コメント 田辺明生 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科)

吉村智博 (大阪人権博物館)「被差別部落について：その歴史的表象をめぐって」

友永健三 (前部落解放・人権研究所所長)「『世系』、『職業と世系』に基づく差別と部落差別に
ついての若干の考察」

2010/ 12/ 04 - 05 2010 年度 第 10 ・ 11 回研究会

松田ヒロ子 (日本学術振興会 上智大学)「縫合線上を生きる：植民地下台湾の沖縄県出身移
民」

李 昇燁 (京都大学 人文科学研究所)「戦前日本のエロ本における人種表象」

東島仁 (金沢大学 大学教育開発・支援センター)「米国人類遺伝学会における Roderick R.
McInnes 会長の講演紹介」

菅野優香 (京都大学人文科学研究所 研究員)「ゲノム研究に関する文献紹介」

後藤千織 (京都大学人文科学研究所 研究員)「『日系 / アジア系アメリカ人の人種表象』の関連
文献紹介」

2011/ 01/ 08 - 09 [シンポジウム] 日系 / アジア系アメリカ人の人種表象 (東京)

会場：品川・京都大学東京オフィス / キャンパスイノベーションセンター

Introduction: Yasuko Takezawa (Kyoto University)

Gary Okihiro (Columbia University) “Theorizing Social Formation”

Fuminori Minamikawa (Ritsumeikan University) “Vernacularizing Racism: Japanese Immigrants and the Language of Race”

Michael Omi (University of California, Berkeley) “The Unbearable Whiteness of Being: Representations of Japanese/Asian Americans in Contemporary Sociological Thought”

Sachiko Kawakami (Kyoto University of Foreign Studies) “Postcolonial Nihonmachi: Commodifying Racial Differences in the Age of Globalization”

Mari Matsuda (University of Hawaii, Manoa) “Japanese American Progressives: A Case Study in Identity Formation”

Commentators: Eiichiro Azuma (University of Pennsylvania), Masumi Izumi (Doshisha University)

2011/ 01/ 10 [シンポジウム] 日系 / アジア系アメリカ人の人種表象 (京都)

会場: 京都大学人文科学研究所

Michael Omi (University of California, Berkeley) “Colorblind?: The Contradictions of Racial Classification”

Comment: Mari Matsuda (University of Hawaii, Manoa)

Charles R. Lawrence (Georgetown University/University of Hawaii, Manoa) “Critical Race Reconstructions: Japanese/Asian American Interventions in the Black-White Binary of American Racial Discourse”

Comment: Gary Okihiro (Columbia University)”

2011/ 01/ 22 - 23 [国際ワークショップ] 人文学とゲノム研究のインターフェイス

[場所]

人文科学研究所大会議室

[イントロダクション]

Yasuko Takezawa (Kyoto University)

Kazuto Kato (Kyoto University)

[報告]

Duana Fullwiley (Harvard University.) “Between Political Equality and Human Biological Difference: Interpreting African Genetic Diversity in American Genome Science”

Amy Hinterberger (University of London) “We’re in it for Life’: Biomedical Genomics, and Multicultural Politics in Canada”

Shirley Sun (Nanyang Technological University) “Exploring the Purchases and Pitfalls

of a Pan-Asian framework in Human Genetics Studies”

Katsushi Tokunaga (University of Tokyo) “Genome Diversity and Regional Differences in Disease Genes”

Michael Montoya (University of California, Irvine) “Beyond the critique: How Understanding Genomic Racialization Can Improve Disease Research”

Hiroki Oota (Kitasato University) “How Should We Think about ‘Population’ in Population Genetics?”

[コメント]

Troy Duster (University of California, Berkeley)

Wen-Hua Kuo (Institute of Public Health & Department of Public Health, National Yang-Ming University)

2011/ 02/ 19 [共同研究会] 第 12 回研究会：日本の人種主義

[場所]

人文科学研究所会議室

[報告]

戸邊秀明 (東京経済大学)

「沖縄研究の変貌と「沖縄人」という問題構成の現在：近現代史研究者の視点から」

板垣竜太 (同志社大学)

「現代日本のレイシズム点描：朝鮮学校への攻撃・排除を事例に」

2011/ 03/ 06 [公開シンポジウム] 今, アイヌであること —— 共に生きるための政策をめざして

日本学術会議 人類学分科会・自然人類学分科会等と共催

[場所]

法政大学市ヶ谷キャンパス, 58 年館 844 号室

[司会]

竹沢泰子, 佐野賢治

[報告]

本多俊和 (日本学術会議連携会員, 放送大学教授) 「世界の先住民族, 日本の先住民族」

佐々木利和 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授) 「一つの列島, 二つの国, 三つの文化」

常本照樹 (北海道大学アイヌ・先住民研究センター長) 「アイヌ政策と多文化共生」

篠田謙一 (国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長) 「アイヌ民族の自然人類学研究とその課題」

原田公久枝, 丸子美記子 「今, アイヌであることを語る」

コメンテーター

加藤忠（北海道アイヌ協会理事長，財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構副理事長）

窪田幸子（日本学会議連携会員，神戸大学教授）

2011/ 03/ 25 - 27

[文理融合ワークショップ]「沖縄人の表象をめぐって」（人類学研究交流会との合同合宿）

[場所]

ホテルグランビュガーデン沖縄

3 / 25

沖縄の歴史と現状を理解するための現地見学

八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館，港川フィッシャー，ガンガラーの谷，糸数アブチラガマ，
嘉数高台（普天間基地），県立博物館・美術館

講演「沖縄の歴史：平和・自立・共生への道」大城将保（沖縄国際大学，沖縄平和ネットワーク
代表世話人）

3 / 26

山口 徹（慶應大学）「石垣島名蔵地区の長期的景観史研究」

新里貴之（鹿児島大学）「貝塚時代後期前半（弥生時代～古墳時代並行期）の文化と社会」

土肥直美（元琉球大学）「人骨形質から見た沖縄人」

木村亮介（琉球大学）「ゲノム人類学にみるウチナンチュの特徴」

3 / 27

前嵩西一馬（早稲田大学）「The Okinawan Reality Show：揺れる「沖縄人」，掠れる「沖縄口」」

成田龍一（日本女子大学）「占領期日本における「混血」表象をめぐって」

高みか（早稲田大学）「抵抗する映画：映画の中の沖縄表象」

全体討論

研究進捗状況報告会